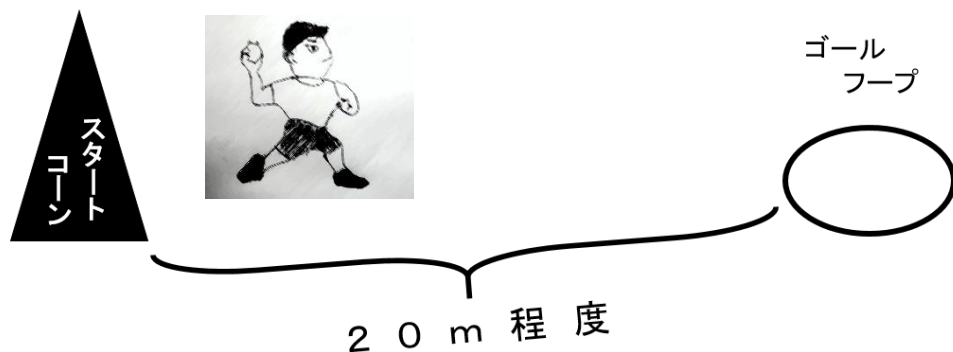


コロナ禍におけるゲーム

スローゴルフ

コート図



このゲームのよさ・身に付けさせたいこと

このゲームは、規則がシンプルなのでゲームを

工夫しやすいのが特徴です。場の工夫や用具の工

夫などの選択肢を用意し、「みんなが楽しめるため

に」を外さずに、児童が規則を選べるようにしま

しょう。

はじめの規則

- 1チーム3～4人 7～8チーム程度
- コートの数はチーム分用意する（コートの長さ10～15mくらい）
- 一人一つ、ボールを持つ。
- 最初に投げる人が、スタートからボールを投げる。ボールが落ちたところから、次の人が投げる。これを繰り返して、ゴールに入れる。
- すべてのコートを回り、全部で何回投げたかを競い、少ないチームの勝ち。

規則の工夫例

- 場の工夫・・・コートやゴールの形状を工夫する。
例 コートの中に「ここに落ちたら2回分投げた回数を増やす」場を作る。
ゴールを、傘を裏返したものにし、立体感を出す。
- 用具の工夫・・・投げるものを工夫する。
例 新聞紙にアルミホイルを巻いた球、紙飛行機、楕円球、タオルを丸めたもの
- 競い方の工夫
すべてのホールを回り終わるタイムをチーム対抗で競う。

新しい生活様式を受けての留意点

- 密集する場面がないので、距離をとって運動することができる。
- グループや個人のペースで運動を行うことができ、長期休業後の体力に合わせて無理なく運動できる。
- 個人で投げるものを持つので、用具の共有を避けられる。